

教員インタビュー（栄養士）

島に赴任しようと思ったきっかけを教えてください。

学生時代に、奄美大島でリゾートバイトをしたのをきっかけに、「いつか島で暮らしてみたい」と思っていました。しかし、知らない土地にいきなり永住する勇気はなかったので、漠然とした夢のように思っていました。そんな中、就活をしていて、東京都の栄養士には島しょ配属というものがあると知り、応募しました。

児童（生徒）の人数が少ないことについて、どう感じていますか？

食数が少ない分、丁寧に調理でき、手の込んだメニューも取り入れやすいです。調理員さんたちが1つ1つ丁寧に盛付けるパフェは毎年人気のメニューです。また、給食中に教室を回ると、子供一人ひとりと話せるので、それぞれの好き嫌いや食習慣を把握したり、それぞれの理解度に合わせてじっくりと食育を行うことができます。

島の学校と内地の学校で違いがあると感じることは何ですか？

新規採用で島配属だったので、内地との比較は難しいのですが、式根島の子どもたちは好き嫌いがあまりなく、何でもよく食べてくれるので、ほぼ毎日完食です。そのため、新しいメニューにも挑戦しやすいですし、空になった食缶を見るのは単純に嬉しいです。

仕事や日常生活において、赴任前のイメージと違ったことを教えてください。

仕事面で、思いのほか周りの島の栄養士さんたちと関わる機会があったことです。島の栄養士たちは、定期的にオンラインで集まり、それぞれの島で行った食育事例や困りごとを共有する機会があります。そのため、働く上での心細さはなく、周りの方々からいい刺激をいただきながら、業務にあたることができています。

休日は、何をして過ごしていますか？

島に来てから始めたボディボードというマリンスポーツをしています。海から上がったまま歩いて隣の温泉に行くこともできます。のんびりしたいときは、

静かな海辺で夕日を見ながら本を読んだりします。また、近くの島に行くと手軽に旅行気分を味わえますし、隣の新島には日帰りでも行くことができます。

島の学校に来て、最も印象に残っていることを教えてください。

隣の新島発祥の「くさや」を給食に出した日のことです。最初は苦手な子が多いと思っていましたが、蓋を開けてみれば、ほとんどの子が「くさはめったに食べないけれど、大好き」と、久しぶりのくさをおいしそうに食べていました。その姿を見て、給食で子どもたちに地域のものを出すことは、地域の食文化の保護や継承にもつながるのだと、給食の持つ可能性を改めて感じた日でした。

島での生活や仕事の一番の魅力を教えてください。

通勤が快適なところです。私は自転車通勤なのですが、式根島は木陰が多く、風もあるため、夏は都内より涼しく、さわやかな気持ちで通勤することができます。また、すれ違う地域の方たちとあいさつを交わしたり、「いってらっしゃい」と声をかけていただいたりすると、一日をすがすがしく過ごせます。

島への赴任を検討している方に一言お願いします。

職場の方々、地域の方々はみなさん優しく、仕事面でも生活面でも困っていると助けてくださいます。また、「給食がおいしい」と言ってくれる子どもたちの存在は大きく、栄養士業務のやりがいにもつながります。不安なこともあるかと思いますが、それを上回る貴重な経験がたくさんできるはずです。ぜひ、島への赴任をご検討ください。